

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 1 日現在

機関番号：14303
 研究種目：挑戦的萌芽研究
 研究期間：2012～2014
 課題番号：24652021
 研究課題名(和文)セザンヌに於ける、アンチ・モダニズムの思想

研究課題名(英文)The Idea of the anti-modernism in Cezanne

研究代表者

永井 隆則 (NAGAI, Takanori)

京都工芸繊維大学・工芸科学研究科・准教授

研究者番号：60207967

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,100,000円

研究成果の概要(和文)：100年以上にわたる、セザンヌの研究史を纏めると共に、その中で主体-環境論(社会史研究)が担う新しい可能性、並びに、セザンヌ芸術を主体-環境関係論の立場から明らかにするための方法論を提示した。

セザンヌの「アンチ・モダニズムの思想」の形成を、セザンヌが交流した、エミール・ゾラ、カミーユ・ピサロをはじめとする、パリの画塾アカデミー・スイスに集った画家達、ガシェ博士、コレクターのヴィクトール・ショケ、絵の具商のジュリアン・タンギーの思想を調査し彼らからの触発ないしは彼らとの共鳴関係から説明した。

研究成果の概要(英文)：I summed up the history of researches on Cezanne of all over the world from his time to our days, and presented, in this long history of the over 100years, the new possibility of the research on Cezanne from the theory of the subject-milieu(research of the social history of art). I analyzed the social ideas of his friends, Emile Zola, the painters of the Academy Suisse(as Camille Pissarro), collectors as Dr.Gashet, Victor Choquet, merchant of the paint, Julien Tanguy, to demonstrate how Cezanne formed his idea of the anti-modernism, being impacted by their ideas.

研究分野：人文学

キーワード：アンチ・モダニズム ポヘミアン アナキズム セザンヌ 主体-環境論 社会史 芸術と思想 近代美術

1. 研究開始当初の背景

フランスの画家、ポール・セザンヌ (1839-1906) 研究の領域では、20世紀初頭以来、セザンヌ絵画の芸術内在的展開(自律性)を主張して、これを分析する形式主義美術史が盛んに行われた。これに対抗して、これを乗り越えるべく、1960年代から、形式の背後にセザンヌの無意識を解釈する、精神分析研究が登場し今日ではセザンヌ研究の主流となっている。この2つの流れは一見相対立するかに見えながら、以下の共通性を持っている。すなわち、作家の内面、意識に注目し作品を分析する立場であり、これを主体論的セザンヌ研究と呼んでおく。これに対して、セザンヌ以外のモダン・アーティストの研究は、1960年代以降、主体論から脱却して、作家が身を置いた環境とどのように関係を持ちながら、作品を生産したかに注目する立場へとシフトしてきた。これを主体環境関係論と呼んでおく。

2. 研究の目的

本研究は、これまでセザンヌ研究の領域で全くなされてこなかった、主体環境関係論の立場から、セザンヌの造形的達成を解釈しようとする試みである。セザンヌが、産業革命、フランス革命を経た後、パリ都市改造など、19世紀半ばから20世紀初頭の近代化の進むフランス社会に生きながら、制作を通して、自らの時代と社会を解釈していた事、それによって、ある種の社会的立場表明を行い、社会参加していた事を、セザンヌ自身の言葉、同時代の批評等の文献とセザンヌの作品分析を通して明らかにする。仮説として、彼が「アンチ・モダニズムの思想」を表明していた事を措定としている。これにより、これまで流布して来た、社会に無関心に生きた孤高、隠者的、自己充足的画家としてのセザンヌ像を批判し、セザンヌ解釈のコペルニクス的転換を図る、画期的研究を目指す。

3. 研究の方法

(1)セザンヌの、唯一信頼するに値する言葉が残る『セザンヌ書簡』から、「自然」と近代化、機械化に関する言葉を網羅的に検索し、セザンヌの近代化時代に対する思想的立場を明らかにする。

(2)セザンヌと交流した人々、ゾラ、ピサロ、ガシェ博士、ヴィクトール・ショケ、ジュリアン・タンギーの思想を調査し「セザンヌのアンチ・モダニズム思想」形成との関連を探る。

(3)同上の作業を、ドラクロア、ボードレールなどの残した言葉へと遡っていき、セザンヌの思想源泉を調査する。

(4)セザンヌの生きた時代に登場してきた近代化の産物を、ミュンヘン、ロンドン、パリの各科学博物館で調査する(機関車、飛行船、蒸気船、電気照明器具など)。

(5)セザンヌの社会史研究に関する先駆的研究である、カルマイヤ-著『セザンヌとプロヴァンス』(2003)を精読し、セザンヌを「主体環境論」から解釈する可能性について検討する。

(6)本研究は、最終成果物を、パリの高等社会科学研究所に博士号請求論文として提出する、高い目標設定を掲げ計画している(フランスの博士論文提出資格論文 D.E.A は、終了済みである)。

4. 研究成果

1)2102年、国立新美術館で企画・開催された「セザンヌ パリ-プロヴァンス展シンポジウムで、「セザンヌ研究の現在 研究史から見る今日のセザンヌ像」と題して基調講演を行い、セザンヌ研究史を纏めると共にその中で主体環境論(社会史研究)が担う新しい可能性について論じた。

2)2014年、「シャピロからカルマイヤ-セザンヌの社会史研究の可能性」と題した論文を

発表し、セザンヌ芸術を主体 環境関係論の立場から明らかにするための方法論を提示した。

3) 「セザンヌのアンチ・モダニズムの思想」と題して、パリ社会科学高等研究院に博士論文を提出すべく、審査を受けて「博士号準備学生」として登録を認められ、指導教授から本テーマに関して研究指導を受けた。

4)セザンヌの「アンチ・モダニズムの思想」形成の源泉を、セザンヌが交流した、エミール・ゾラ、カミーユ・ピサロをはじめとする、パリの画塾アカデミー・スイスに集った画家達、ガシェ博士、コレクターのヴィクトール・ショケ、絵の具商のジュリアン・タンギーの思想からの触発ないしは共鳴関係から説明した。その内容は、パリ社会科学高等研究院に博士論文の一部(A4 シングル・スペースで90頁)として指導教官に提出した。

5)本研究成果によって、セザンヌ研究の領域でこれまで殆ど手つかずであった「主体 環境論(社会史研究)」の可能性を切り開く事でセザンヌ研究にコペルニクス的転換を図り世界規模で貢献を行う事が出来た。

6)今後は、セザンヌの<芸術論>も総合的に研究することで、「セザンヌのアンチ・モダニズムの思想」の研究を完成させる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 4件)

永井隆則「文献学 セザンヌの友情の行方をにぎる手紙を解読せよ！」、『美術手帖』(特集：世界一受けたい！印象派の授業)、査読無、Vol.66 NO.1008, 2014年8月、82-87頁。

Takanori NAGAI, Cézanne and the Past(Exhibition Review). Bulletin de

Musee Hongrois des Beaux-Arts., SZEPMUVESZETI MUZEUM BUDAPEST, Hungary 査読無、2012/116-117, 2013.12 ,pp.164-165.

永井隆則：「大野芳材編著『装飾と建築：フォンテーヌブローからルーヴシエンヌへ』 - <場所>で読み解く近世美術の豊饒さ」。『図書新聞』、査読無、3137号、2013年11月、5面。

永井隆則「セザンヌのパリ滞在の意味」『国立新美術館ニュース』、査読無、2012年5月、第22号、1-2頁。

〔学会発表〕(計 1件)

永井隆則「ルドン、ゴーギャン；象徴主義研究の新たな方向性ーダリオ・ガンポーニを出発点として」(コメンテーター)日仏美術学会第134回例会、2014年12月、京都大学(京都市)

〔図書〕(計 2件)

永井隆則、工藤弘二、三浦篤、新畑泰秀『シンポジウム「セザンヌーパリとプロヴァンス」展から見る今日のセザンヌ』(共著).国立新美術館. 2013年3月、8-33頁

永井隆則『探求と方法 フランス近現代美術史を解剖するー文献学・美術館行政から精神分析・ジェンダー論以降へ』(編著)、晃洋書房. 2014年3月、195頁

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：

発明者：

権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況（計 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

永井 隆則 (Takanori Nagai)
京都工芸繊維大学・大学院工芸科学研究科・
准教授

研究者番号：

60207967

(2) 研究分担者

なし ()

研究者番号：

(3) 連携研究者

なし ()

研究者番号：